

都市部における散歩行動特性に関する研究

Stroller's Walking Characteristics in Urban Area

外井哲志*¹・坂本紘二*²・白泰晃*³

Satoshi TOI, Koji SAKAMOTO, Tae-kyung PAEK

1. はじめに

近年、健康面からの歩行や散策の重要性の高まりとともに、安全だけでなく散歩道としても気持ちよく歩ける歩行空間の充実が期待されている。

このような背景から、著者らは、快適な歩行空間の特性を知ることを目的とし、商店街周辺に田園風景が広がる福岡県田主丸町において、平成6年10月に散歩行動に関する実態調査を実施した。その分析結果からは、散歩の頻度・目的・時間帯などに止まらず、散歩経路の選好特性に関しても多くの興味深い知見を得ることができた^{1), 2), 3)}が、調査対象地域が限定されているため、分析結果を一般化するに至らなかった。

そこで、都市部と地方部における散歩特性の共通点と相違点の分析に基づいて散歩行動特性の一般化を図るため、新たに平成9年10月、福岡市の都心部に隣接する住宅街である福岡市南区長丘・大池地区を対象とした散歩行動の実態調査を実施した。

本報告は、同地区における散歩行動の実態を分析し、地方部である田主丸地区との比較を行い、両者の相違と共通点を明らかにしようとするものである。

2. 調査の概要

(1) 調査地域の概要

長丘・大池地区は、人口約18000人、面積約1.94km²の住宅地である。同地区は福岡市南区に位置し、都心に隣接してはいるものの、起伏があり、水辺や緑にも恵まれた環境にある。産業は第3次産業がほとんどで、人口は増加傾向にある。

田主丸地区は、福岡県筑後地方の田園地帯に位置する人口約22000人の町であり、人口の自然減とともに高齢化が進みつつある。産業は1次産業が4割を超え、3次産業と併せて約8割に達する。

(2) 調査方法

両地区とも基本的に同じ調査方法をとった。

調査対象者は、中学生以上とした。調査項目は、個人属性、世帯属性、散歩行動の実態（散歩経路を含む）、その他生活環境などの項目からなっており、調査票を作成して、訪問配布・留置・訪問回収法で平成9年10月に調査を実施した。

長丘・大池地区では、地区を複数のゾーンに分割してゾーンごとに無作為に抽出した。家庭訪問に際しては、両地区の自治会長、町内会長を通して、地区住民に対し事前に協力依頼を行った。調査票を合計911部配布し、結果として293世帯588人分を回収した（回収率64.5%）が、そのうち、有効回答数は511であった。

田主丸地区では、町の青年会議所を通し、町の中心部の住民に協力を依頼し、町の中心部の1158世帯から464世帯を抽出し、平成6年10月に調査を実施した。調査票1130部配布し、313世帯から有効票814部を回収した。

表-1 有効回答者の年齢構成

	長丘・大池 (都市部)	田主丸 (地方部)
20才未満	9.2%	8.4%
20～30未満	11.8	10.7
30～40未満	18.4	13.7
40～50未満	24.3	17.5
50～60未満	13.8	16.7
60～70未満	12.7	18.7
70才以上	9.9	14.4
合 計	100.0	100.0

表-1 に有効回答者の年齢構成構成を示す。50歳を境にして年齢構成に相違が見られ、長丘・大池地区が田主丸地区に比べて調査対象者の年齢構成が低いことがわかる。

3. 散歩行動に関する単純集計結果

表-2 に散歩頻度の分布を示す。

長丘・大池地区では、年に数回以上散歩をする人が全体の77%、全く散歩をしない人が23%であるのに対し、田主丸地区では、それぞれ58%、42%であり、前者での散歩者の割合が高くなっている。頻度別に比較すると、「ほぼ毎日」の割合は両地区とも大差ないが、「月に2,3

キーワード：歩行者交通行動、歩行者交通計画、地区交通計画

*1 正会員、工博、九州大学大学院工学研究科（福岡市東区箱崎6-10-1, tel 092-642-3277, e-mail toi@doc.kyushu-u.ac.jp）、*2 正会員、工修、下関市立大学（下関市大学町2-1-1, tel 0832-54-8652）、*3 東義大工科大学都市工学科（大韓民国釜山廣域市）

表-2 散歩の頻度

	長丘・大池 (都市部)	田主丸 (地方部)
ほぼ毎日	17.4%	16.8%
週に2,3回以上	16.9	14.7
月に2,3回以上	21.8	13.1
年に数回程度	20.9	13.1
全くしない	23.0	42.1
合 計	100.0	100.0

表-3 性別の散歩頻度

	長丘・大池 (都市部)		田主丸 (地方部)	
	男性	女性	男性	女性
ほぼ毎日	13.6%	20.7%	13.9%	19.1
週に2,3回以上	12.3	20.3	13.6	15.6
月に2,3回以上	22.6	21.0	12.3	13.8
年に数回程度	21.8	20.0	12.5	13.6
全くしない	29.6	18.0	47.6	37.8
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

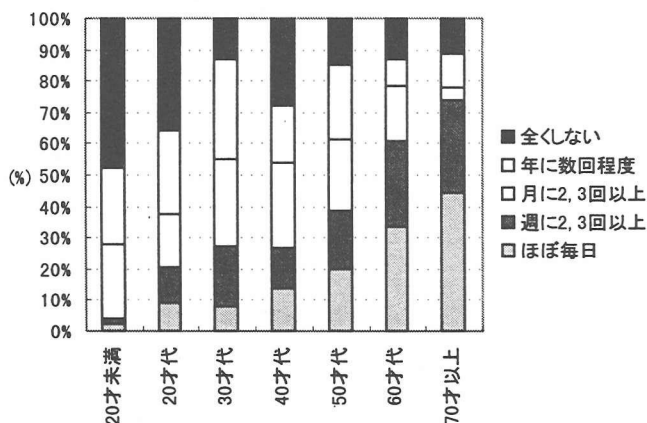


図-1 年齢別の散歩頻度（長丘・大池）

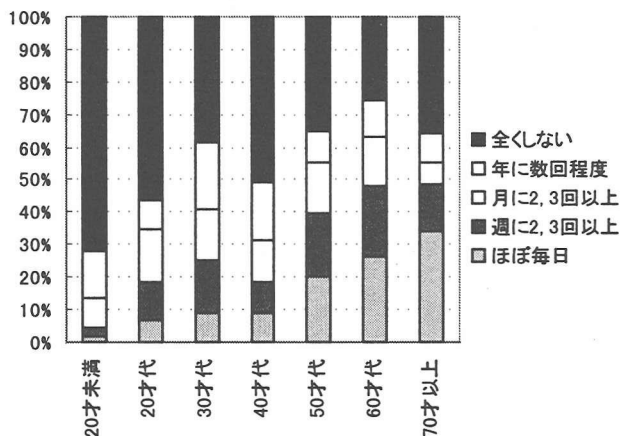


図-2 年齢別の散歩頻度（田主丸町）

回、「年に数回程度」といった低頻度の散歩者の割合が相対的に高い。

男女別の散歩の頻度を表-3 に示す。両地区とも共通して男性よりも女性の方が散歩の頻度が高い。男女別の散

歩頻度の傾向に地域差は見られない。

年齢別の散歩頻度を図-1、図-2 に示す。

両地区とも、「ほぼ毎日」と「週に 2,3 回以上」の合計は、年齢層が上がるとともに増加しており、70 才以上が最も多くなっている。この傾向は長丘・大池地区においてより顕著であり、高齢者ほど散歩頻度が高くなる傾向がはっきりと現れている。また、40 歳代では前後の年齢に比べ「全く散歩しない」人の割合が高い。

この傾向は両地区に共通であり、働き盛りの年齢層には散歩をする余裕も少ないのではないと思われる。

散歩の目的については、表-4（複数回答を合計 100% で表示した）に示すように長丘・大池地区において「体力向上・健康維持」と「気分転換」が同数で 24.1% と多く、「買い物」が 14.4% で比較的多くなっている。田主丸では、調査項目が多少異なるので単純に比較できないが、「体力向上・健康維持」が 46.1% とほぼ半数を占めており、長丘・大池地区に比べて相対的に高い。田主丸地区における調査では、犬の散歩、子供を遊ばせながら、買い物、暇つぶしなどの選択肢は設けておらず、「その他」に含まれる形となっており、合計で 8.9% であったが、長岡・大池地区ではこれらの合計が 33.2% に達しており、同地区における散歩目的の相対的な多様性がうかがわれる。

散歩の種類については、表-5 に示すように「自宅周辺を歩く」タイプの散歩が 47.3%、次いで「時間を過ごす」タイプの散歩が 22.4% と多い。特に、「公園・水辺など目的地へ行って、時間を過ごす」タイプの散歩は、田主丸地区と比較して多く、2 倍以上の割合に達している。また、「自然・街並み・路上の観察をする」タイプの散歩もやや多い。これらの点から、長丘・大池地区の散歩は、田主丸地区の散歩に比べて、必ずしも歩くことのみではなく、休憩や観察などにも重点がおかれた散歩パターンとなっているように思われる。

散歩の時間は、表-6 に示すように、長丘・大池では「30 分～1 時間」の散歩時間が 60% 以上を占めており、「1 ～2 時間」の割合も高く、田主丸に比べて散歩時間が長い。しかし、散歩パターンに関する上述の特徴を考慮すれば、必ずしもこれは長距離を歩いていることを意味せず、散歩時間に公園や水辺で過ごす時間が含まれているために散歩時間が相対的に長くなったものと解釈できる。

散歩の時刻は表-7 に示すように、長丘・大池では「夕方」（20.5%）、「特に決めていない」（29.0%）が多い。これに対し、田主丸では「早朝」（20.2%）、「特に決めていない」（25.3%）が多い。また、長丘・大池では夜間と早朝の散歩が少ない。これは、両地区の散歩者の年齢層の違いに基づく生活時間のずれが一因と思われるが、長丘・大池地区で夜間の散歩者が少ない理由として、都市部特有の犯罪に巻き込まれることへの警戒感が原因でとも考えられる。

表-4 散歩の目的

	長丘・大池 (都市部)	田主丸 (地方部)
気分転換のため	24.1%	25.9
体力向上・健康維持のため	24.1	46.1
日課として	4.7	7.1
なんとなく	5.5	12.0
犬の散歩	6.8	
子供を遊ばせながら	7.5	
買い物がてら	14.4	
ひまつぶし	3.9	
その他	0.6	8.9
無回答	8.4	
合 計	100.0	100.0

表-5 散歩の行動パターン

	長丘・大池 (都市部)	田主丸 (地方部)
目的地はなく、自宅周辺を歩く	47.3%	51.7%
公園・水辺など目的地へ行って、時間を過ごす	22.4	9.2
数カ所の主要な場所(ポイント)を決めて巡る	9.2	14.9
自然・街並み・路上の観察をする	12.2	9.4
その他	7.5	14.6
無回答	1.4	0.2
合 計	100.0	100.0

表-6 散歩の時間

	長丘・大池 (都市部)	田主丸 (地方部)
30分未満	20.9%	47.0%
30分～1時間	61.1	45.3
1～2時間	15.6	7.3
2時間以上	2.4	0.4
合計	100.0	100.0

表-7 散歩の時刻

	長丘・大池 (都市部)	田主丸 (地方部)
早朝	10.1%	20.2%
午前中	16.3	10.9
昼休み	1.4	1.2
午後	17.0	10.5
夕方(夕食前後)	20.5	17.4
夜間	5.7	14.5
特に決めてない	29.0	25.3
合計	100.0	100.0

散歩コースを選んだ理由の頻度を図-3 に示す。

長丘・大池地区では、⑮自宅の近くにあるからを挙げる割合が高く、次いで、①静かで気持ちが落ちつくから、⑩美しい自然の風景があるから、②休憩できる場所・見晴らしの良い場所があるから、⑨自然の動植物に接することができるからなどの順となっている。一方、田主丸地区では⑮に次いで、①よりも⑩⑪⑫の構成率が高く、自然の要素を求めている様子が読みとれる。

図-3 の分布より、都市的要素やにぎわいよりも自然・

落ち着いたを求める傾向が強いという両地区に共通した志向が見られる反面、それぞれの地区の環境条件の相違によって、都市部である長丘・大池地区では都市部的要素(②～⑥)を、地方部である田主丸地区では田園的要素(⑩～⑫)を散歩経路に求めている傾向が読みとれる。

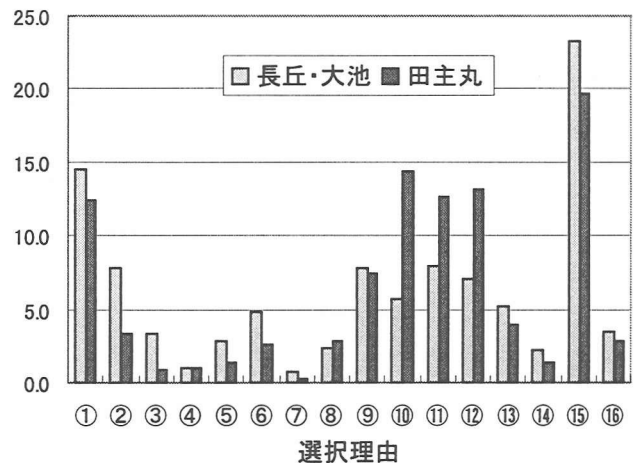


図-3 散歩コースを選んだ理由

注) ①静かで、気持ちが落ちつく。②休憩できる場所・見晴らしの良い場所がある。③商店や人が多く、にぎわいがある。④迷路のようで、何かおもしろいものを発見できそう。⑤街並みの景観が美しい。⑥道の両側の家々の生け垣や庭の花がきれい。⑦歴史的な建物や史跡があり、それらを見て楽しめる。⑧散歩仲間と話ができる。⑨自然の動植物に接することができる。⑩川や池、堤などの水辺があって気持ちがよい。⑪美しい自然の風景がある。⑫自動車が減多に通らないので安全。⑬路面に土が残されていて歩きやすい。⑭照明設備が充実しており、明るい道。⑮自宅の近くにある。⑯その他

4. 散歩行動の類型化

散歩行動の実像をより明確するため、長丘・大池地区の散歩行動を類型化²⁾し、田主丸地区の散歩行動分類と比較分析する。なお、この手法は田主丸地区の類型化の際にも適用している。

(1) 類型化の方法

①まず、全データから、「全く散歩をしない」と回答したデータ、散歩行動に関する9項目(散歩の頻度、種類、同伴者、目的、時刻、時間、目標の有無、天候の影響、重要性の計 44 カテゴリー)のいずれかが不完全なデータを取り除く。有効データ数は398であった。

②このデータを数量化Ⅲ類で分析した結果のカテゴリースコアを用いて、クラスター分析(Euclid 距離、最遠隣法)を行って、散歩行動データを分類する。

③次に、分類されたグループがどのような特性を持つかについて、①で用いた9項目(44 カテゴリー)について、以下の方法で統計的な有意性を検定する。

注目するカテゴリーの反応数がデータ中に占める比率を母数として、各グループ中に占める比率の有意性を統計的に検定する。すなわち、

S_j をアイテム(j)の全反応数、

T_{jk} をアイテム(j)、カテゴリー(k)の全反応数、

p_{jk} をアイテム(j)、カテゴリー(k)の比率 ($=T_{jk}/S_j$)、

G_{ij} をグループ(i)のアイテム(j)の反応数、

X_{ijk} をグループ(i)のアイテム(j)、カテゴリー(k)の反応数、

とすると、行動分類のデータ(S_j)からランダムにグループ(i)のデータ(G_{ij})を抽出したとき、カテゴリー(k)の反応数が(X_{ijk})である確率は次の二項分布で表される。

$$P(X_{ijk}) = {}^{G_{ij}}C_{X_{ijk}} p_{jk}^{X_{ijk}} \cdot (1-p_{jk})^{G_{ij}-X_{ijk}} \quad (1)$$

二項分布は、本データのようにデータ数が十分に大きければ、期待値 $G_{ij} \cdot p_{jk}$ 、分散 $G_{ij} \cdot p_{jk} \cdot (1-p_{jk})$ の正規分布に近似でき、 X_{ijk} は次式で標準化できる。

$$Z_{ijk} = (X_{ijk} - G_{ij} \cdot p_{jk}) / \{G_{ij} \cdot p_{jk} \cdot (1-p_{jk})\} \quad (2)$$

α (有意水準) = 5% とすれば、 $Z_{ijk} > Z(\alpha/2) = 1.96$ を満足する場合のみ、i グループの j アイテム k カテゴリーが有意である (特徴がある) と判断できる。

表-8 散歩行動分類とその特性値

ITEM	CATEGORY	行動分類						GIの細分類						
		G1	G2	G3	G4	G5	G6	G1-1	G1-2	G1-3	G1-4	G1-5	G1-6	G1-7
		263	74	29	28	3	1	92	114	14	16	15	6	6
頻度	ほぼ毎日	-6.0	<u>9.7</u>	<u>2.8</u>	-0.2	-0.9	1.8	-5.0	-2.7	-2.0	-2.2	-0.3	-0.4	-1.3
	週2, 3回	-0.2	0.7	-1.1	0.4	0.5	-0.5	<u>2.9</u>	-2.3	0.6	-0.3	-0.2	-1.3	-1.3
	月に2, 3回	<u>2.5</u>	-4.8	0.4	0.1	-1.1	-0.6	0.2	<u>2.5</u>	1.3	0.9	-0.1	0.3	1.2
	年に2, 3回	<u>3.4</u>	-5.1	-2.1	-0.3	1.5	-0.6	1.8	<u>2.2</u>	0.1	1.4	0.5	1.2	1.2
行動様式	自宅周辺	<u>2.4</u>	-3.6	-0.3	-1.7	1.8	-1.0	-0.8	<u>5.5</u>	-1.4	0.7	-2.7	0.1	0.1
	時間を過ごす	-1.6	<u>2.0</u>	-1.2	<u>3.4</u>	-0.9	-0.5	-0.8	-2.0	1.8	-0.4	-0.9	-0.4	0.6
	周遊する	-2.5	<u>4.2</u>	<u>2.2</u>	-1.0	-0.5	-0.3	-1.6	-2.7	0.7	-0.4	0.6	0.7	-0.8
	観察する	1.3	-0.8	-2.0	-0.3	-0.7	-0.4	<u>3.6</u>	-1.5	-0.6	0.0	0.9	0.3	0.3
	その他	-0.8	0.1	<u>2.6</u>	-0.8	-0.5	<u>3.4</u>	-0.1	-2.4	-0.1	-0.2	<u>4.7</u>	-0.7	-0.7
同伴者	一人で	1.0	<u>3.5</u>	-4.1	-4.7	0.8	-0.9	0.4	<u>2.3</u>	-2.8	0.4	1.7	-2.2	-2.2
	夫婦で	<u>2.1</u>	-1.6	-1.4	-2.3	-0.9	-0.5	<u>6.4</u>	-0.4	-1.9	-0.8	-1.4	-1.3	-1.3
	子供・孫と	-2.2	-2.0	-1.7	<u>11.5</u>	-0.7	<u>2.4</u>	-2.9	0.5	-1.6	-1.0	0.5	-1.0	-1.0
	親と	1.0	-1.1	-0.7	-0.7	-0.2	-0.1	-1.2	-1.3	-0.5	-0.5	-0.5	<u>19.8</u>	-0.3
	友人と	0.4	0.4	-1.5	-0.7	1.8	-0.3	-2.2	-1.8	<u>12.6</u>	1.8	-1.1	-0.7	-0.7
	犬などと	-3.2	-0.8	<u>12.8</u>	-1.7	-0.6	-0.3	-3.1	-1.2	-1.2	0.4	-0.4	-0.8	-0.8
	その他	1.0	-1.1	-0.7	-0.7	-0.2	-0.1	-1.2	-1.3	-0.5	-0.5	-0.5	-0.3	<u>19.8</u>
目的	気分転換	<u>5.2</u>	-4.5	-3.8	-4.0	-1.8	-0.9	<u>5.1</u>	<u>4.6</u>	<u>3.6</u>	-3.6	-3.5	1.9	-1.4
	健康維持	-1.9	<u>6.7</u>	-1.2	-3.5	-0.2	-0.7	-0.5	0.4	-1.9	-2.7	-2.6	-0.7	-0.7
	日課として	-2.5	<u>5.7</u>	-0.8	-0.8	-0.3	-0.2	-1.5	-1.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.4	-0.4
	なんとなく	1.9	-1.9	-1.2	-1.2	-0.4	-0.2	-2.1	-1.9	-0.8	<u>17.9</u>	-0.9	-0.5	<u>3.3</u>
	犬の散歩	-3.7	-2.0	<u>15.8</u>	-1.2	-0.5	-0.2	-2.2	-2.5	-0.9	-0.9	-0.9	-0.6	-0.6
	子供を遊ばせる	-4.2	-1.6	-1.5	<u>17.1</u>	-0.6	-0.3	-2.7	-3.0	-1.1	-1.1	-1.1	-0.7	<u>2.4</u>
	買物がてら	1.7	-1.7	-1.1	-1.0	-0.4	-0.2	-1.9	-2.1	-0.7	-0.8	<u>19.6</u>	-0.5	-0.5
	ひまつぶし	-1.4	-0.7	-0.5	-0.5	<u>17.2</u>	-0.1	-0.8	-0.9	-0.3	-0.3	-0.3	-0.2	-0.2
	その他	-0.8	-0.4	-0.3	-0.3	-0.1	<u>19.9</u>	-0.5	-0.5	-0.2	-0.2	-0.2	-0.1	-0.1
時間帯	早朝	-2.6	<u>2.3</u>	<u>4.0</u>	0.1	-0.5	<u>2.0</u>	-1.3	-2.2	-1.5	0.1	0.3	-1.0	0.2
	午前中	0.0	1.2	-2.0	0.3	-0.9	-0.7	<u>2.1</u>	-1.0	-0.7	-1.1	-0.3	0.8	-1.5
	昼休み	-3.1	<u>7.1</u>	-0.9	-1.6	-0.4	-0.3	-2.3	-1.4	-1.1	-1.1	0.0	-0.8	-0.7
	午後	<u>2.0</u>	-2.5	-2.1	0.5	-0.7	-0.6	1.6	0.2	1.9	0.1	1.1	-0.3	1.7
	夕方	-0.8	0.1	<u>4.4</u>	-2.0	0.8	-0.6	-1.6	0.9	0.3	-0.8	-1.2	0.4	-1.3
	夜間	0.7	-0.5	0.3	-1.9	1.6	-0.4	-1.0	<u>2.9</u>	-1.4	-0.6	-0.4	0.2	-0.9
	不定	<u>2.0</u>	-4.0	-2.4	2.9	0.2	0.7	0.8	0.4	1.3	2.4	0.4	0.1	1.8
時間	30分未満	0.7	-2.2	1.9	-1.9	<u>3.0</u>	1.7	-3.3	<u>2.9</u>	-1.0	<u>2.6</u>	1.0	-0.5	0.2
	30分～1時間	-0.2	1.1	0.2	-0.6	-2.1	-1.2	<u>3.5</u>	-1.7	-1.5	-2.6	0.5	-0.4	-0.8
	1時間～2時間	0.4	0.4	-2.3	0.8	-0.7	-0.4	-0.3	-0.6	<u>3.5</u>	0.7	-1.7	1.3	1.0
	2時間以上	-2.5	2.0	-0.8	<u>5.5</u>	-0.3	-0.1	-1.4	-1.6	-0.6	-0.7	-0.6	-0.4	-0.4
目標	ない	<u>2.9</u>	-7.2	0.0	<u>2.4</u>	0.8	0.5	-0.9	<u>3.1</u>	1.0	1.8	1.8	1.1	1.1
	ある	-2.9	<u>7.2</u>	0.0	-2.4	-0.8	-0.5	0.9	-3.1	-1.0	-1.8	-1.8	-1.1	-1.1
天候	晴れた日のみ	<u>3.0</u>	-4.9	-1.8	0.3	1.1	-0.8	<u>2.2</u>	<u>2.2</u>	-0.1	1.1	-0.8	0.7	0.7
	雨天以外	-1.2	1.0	<u>2.0</u>	0.3	-0.8	-1.2	-1.0	-0.9	0.5	-0.6	0.7	-0.4	-0.4
	雨天でも	-3.8	<u>7.8</u>	-0.5	-1.3	-0.4	<u>4.0</u>	-2.4	-2.6	-0.9	-1.0	0.1	-0.6	-0.6
重要性	非常に重要	-3.3	<u>7.0</u>	-0.2	-0.8	-0.5	-0.3	-1.2	-2.4	-1.1	-1.2	-1.1	-0.7	-0.7
	重要	-2.1	<u>3.1</u>	0.7	0.8	-1.3	1.4	<u>2.9</u>	-4.0	-0.5	-1.9	-0.7	-1.0	-1.8
	重要でない	<u>3.8</u>	-6.8	-0.6	-0.3	1.5	-1.1	-2.2	<u>5.2</u>	1.1	<u>2.5</u>	1.3	1.3	<u>2.1</u>

④最後に各グループで有意なカテゴリーを目安にしてグループ名を決定する。

(2) 各グループの特徴の分析

②の方法で 398 データを 6 グループに分類し、③の方法で前出の 44 カテゴリーに関し、式 (2) の Z_{ijk} を計算した結果を表-8 の左欄に示す。この結果より、G1 は、年に 2,3 回、気分転換、晴天のみなどのカテゴリーの数値が高く、気分転換型と呼べよう。G2 は、ほぼ毎日、健康維持、雨天でも、などのカテゴリーの数値が高く、健康維持型（または励行型）と呼ぶことができよう。以下、G3、G4、G5 は 1,2 のカテゴリーの数値が突出して大きく、それらを参照すると、それぞれ犬の散歩型、子守型、暇つぶし型と称することができよう。G6 は特異グループ（データ数 1）であると思われる。

ここで、G1 の規模が 263 と突出して大きいので、これを同様の方法で細分類すると、さらに 6 グループが得られた。これらのグループの Z_{ijk} を計算した結果を表-8 の右欄に示す。カテゴリーの数値の大きさから、G1-1 は夫婦型、G1-2 は自宅周辺型、G1-3 は友人との散歩型、G1-4 は気まま型、G1-5 は買物がてら型、G1-6 は親との散歩型、と呼ぶことができるが、G1-7 については内容を表す的確な名称が見あたらない。ここでは便宜上、その他型としておく。

これらのグループと性別・年齢との関係を見ると、G4、G1-3 のグループは女性が多い。また、G5、G4、G3、G2 の順に若年から老年へと年齢層が上がるが、G1 には顕著な傾向はみられない。ただし、細分類した G1-3、G1-6 には若年層が多く、G1-1 には 50 歳代が多いなどの傾向がある。グループと散歩経路選択理由との関係では顕著な傾向はみられなかった。田主丸地区の分析では、基本分類 8 とその細分類を合わせて計 12 分類が得られているので、対比のため両地区の行動分類を表-9 に整理した。

分類結果を比較すると、多少の差異はあるものの、グループ分類には大差がなく、気分転換型、励行型、犬の

散歩型、子守型、暇つぶし型、買物がてら型、友人（型）など多くのグループにおいて共通点がみられる。

しかし、長丘・大池地区では、気分転換型が数の上で圧倒的な割合を占めており、その細分類では同伴者が誰であるかなどが主要な軸となっているなど、田主丸地区の分類に比べて構造がわかりやすい。これは、表-4 に示したように、長丘・大池地区では気分転換目的の散歩の割合が健康維持目的と同率で最高であり、同地区では気分転換目的が散歩の性格を決定づける主要因となっているためであろうと思われる。

5. 結論及び課題

本研究では、田園地域である田主丸地区における一連の調査研究から得られた散歩行動に関する知識を一般化することを目的として、都市部の住宅地における散歩行動の実態を調査し、それに基づいて散歩行動を分析したものである。都市部・地方部の散歩行動を比較するには必ずしも調査地域数が十分であるとはいえないが、本研究で対象とした長丘・大池と田主丸の両地区に、それぞれ都市部、地方部を代表させれば、分析の結果として、次のことが明らかとなったといえよう。

- (1) 都市部では、地方部に比べて散歩をする人の割合が高い。
- (2) 都市部でも地方部と同様、女性や高齢者の散歩頻度が高い。
- (3) 都市部でも地方部と同様、目的地のない自宅周辺の散歩が多い。
- (4) 都市部では、散歩時間の割合は 30 分～1 時間が全体の 6 割を越え、地方部よりも長い。ただし、この時間には、休憩や観察の時間が多く含まれる。
- (5) 都市部における散歩の時間帯は、「特に決めていない」が約 3 割に達するが、地方部に比べて夕方の散歩が多く、早朝や夜間の散歩は少ない。
- (6) 散歩コースを選んだ理由では、都市部・地方部とも共通に、散歩空間に自然の要素を希求する傾向が強いが、都市部では地方部に比べて都市的要素を求める傾向がみられる。この結果については、散歩空間に対する本質的要求は自然の要素であり、こうした基調の上に地域の特性が現れていると解釈すべきであろうと思われる。
- (7) 散歩行動の類型化の比較では、共通する行動分類が抽出できた。この点では、地域によって全く異なった散歩行動が出現する可能性は低いといえよう。しかし、散歩行動グループの構成率や分類の構造に地域差がみられ、特に都市部では、健康維持型に比べて気分転換型に分類される散歩が多いことが明らかとなった。このことは、地区居住者の生活環境の相違のみならず、両地区の年齢構成の差に影響される部分が大きいと考えられる。

表-9 両地区の散歩行動分類の比較

長丘・大池（都市部）			田主丸（地方部）		
気分転換型	夫婦型	92	友人との会話型		23
	自宅周辺型	114	暇つぶし型		23
	友人型	14	高齢者・励行型		17
	気まま型	16	周遊型		32
	買物がてら型	15	健康維持型		77
	親型	6	気分転換型		29
	その他型	6	犬の散型（夜間）		36
健康維持型		74	（日課）		24
犬の散歩型		29	子守・観察型		24
子守型		28	気まま・ぶらり型		71
暇つぶし型		3	買物がてら型		6
その他（不明）		1	昼休み・探訪型		5
計		398	計		367

以上の結果を総合すると、都市部と地方部の散歩行動形態には、散歩空間に対する要求も含めて共通点が多く、決定的といえるような相違は少ないが、都市部では地方部に比べて散歩者が多く、かつ気分転換の目的が多いという相違があることが明らかとなった。したがって、散歩路の計画を行うに際しては、これらの結果を踏まえて、散歩行動に共通する基本的な特徴を考慮しつつ、地域特性を生かす工夫が望まれる。

なお、今後の課題として、長丘・大池地区の散歩経路に関するデータの分析を通して、都市部の散歩経路の特徴を明らかにする必要があると考えている。

[参考文献]

- 1)外井、坂本、井上、中村、根本：散歩行動の実態とその類型化に関する研究、土木計画学研究・論文集 No.13、pp.743-750,1996.8
- 2)外井、坂本、井上、中村、根本：散歩経路の道路特性に関する分析、土木計画学研究・論文集 No.14、pp.791-798,1997.9
- 3)外井、坂本、井上、中村：散歩経路の形状分類と散歩属性との関連性に関する分析、土木計画学研究・講演集 No.20、pp.465-468,1997.11

都市部における散歩行動特性に関する研究

外井哲志・坂本紘二・白泰晃

著者らは、散歩行動特性の一般化を図るため、田園地域である福岡県田主丸町に引き続き、福岡市の都心部に隣接する住宅街を対象とした散歩行動の実態調査を行った。両地区における散歩行動の比較分析を行った結果、都市部の住宅地における散歩行動は、地方部に比べて、1)散歩をする人の割合が高い、2)女性や高齢者の散歩頻度が高い、3)目的地のない自宅周辺の散歩が多い、4)散歩時間が長い、5)時間帯は、夕方が多く、早朝や夜間が少ない、6)散歩コースを選んだ理由では、都市的要素を求める傾向が強い、等が明らかになった。また、散歩行動のタイプの比較では、気分転換型が多いことが都市部の散歩の大きな特徴であることも明らかとなった。

Stroller's Walking Characteristics in Urban Area

Satoshi TOI, Koji SAKAMOTO, Tae-kyung PAEK

Continuing to the Tanushimaru-cho Fukuoka Pref., the actual condition of walking was investigated on the residential area adjacent to the central area of Fukuoka City, to generalize the knowledge on walking characteristic. According to the comparison analysis, the feature of the walking in the urban area is as followings.

- 1)The ratio of the person who walk is higher.
- 2) walking frequency of women and elderly people is higher.
- 3) There are more strolls around own house which have no destinations.
- 4) Walking time is longer.
- 5) It was clarified that the walking course was requested more urban elements on the road side.
- 6)There were a lot of walking for a change in the urban area.